

笑 顔

☆まあいじかん☆

篠山東中学校 3年1組学級通信

第 63、64 号

2018(平成30)年12月5日発行

発行者 松田 淳二

文化祭を振り返って(感想編)

- 生徒会の和太鼓が凄くて「最後の文化祭が始まるな。もう最後か」と思い寂しくなった。劇をする前に「夢を信じて」をやるとき「私たちいけるな」と自信が出た。私は出なかったけどキャストが役になりきって成功すると信じていた。
- 最後の文化祭ということもあり、1、2年生のときよりも一層クラスで最高の演劇や合唱をしようという気持ちが強かったと思う。特に合唱の「蒼鷺」はとても難しい曲だけど休み時間や音楽の時間に効率よく練習ができて本番はかなり完成度の高い合唱ができたと思う。バスはなかなかエンジンがかからず前半はバスが他のパートよりもかなり遅れていた。ここでスタートの仕方がとても重要だということも学んだ。クラスが丸丸となって一つのものをつくり上げることの大切さも同時に学んだ。練習の初日から、お互いに声を掛けあって、しなければならぬことを計画的に進められて良かった。何よりも中学校生活最後の文化祭を満喫できたので良かった。
- 最高の文化祭にすることができた。なぜなら、それぞれが準備を重ねていいものをつくろうとしたからだ。そして、何でもかんでもリーダーに任せるのではなく主体的に動くことができたからだ。
- みんなが一生涯懸命に文化祭の練習に取り組めたことが本当に良かった。3-1のみんなの2冠とりたいという気持ちと文化祭を成功させるという思いがあったから2冠できたんだと思った。観る人、聴く人に感動を与えられる合唱と演劇ができた3-1は凄いなと思った。
- 中学校生活最後の文化祭ということで必ず成功させて最高の文化祭にしたいという気持ちが深かった。実際、終わってみるとあまり実感がなかった。これからは受験や音弁に向けてがんばっていかなければならないので嫌なことでもやめず努力してがんばっていきたい。文化祭の絆をそのままにして卒業したい。
- 正直、3年生最後の文化祭はとても楽しかったし、堂々と演劇や合唱ができたので良かったし、思い出に残る最高の行事になった。演劇は劇に出る人も出ない人もそれぞれ心をつ



にして、3-1らしい演劇になった。劇に出ている人はそれぞれの役になりきって演じたり、出ていない人は裏の仕事をやってくれた。合唱は、パート練習をやってきたのでよい合唱ができたと思う。吹奏楽部の演奏を盛り上げたりして3-1が文化祭をつくり上げていたと思う。

○最後の文化祭を全力で取り組めて良かった。セリフも忘れずに言えたり、細かな動きもできたので良かった。合唱もとても良くてきたと思うけれど、少し早くなってしまったときがあったので、直してもっといいものにできるようにしたい。

○「蒼鷺」で伸ばすところをしっかりと伸ばし、そのときにみんなが意識して伸ばすことができていたから良かった。

○演劇、合唱どちらも最高なものをつくれたと思う。どちらも一番最後ということでプレッシャーも大きかったが、みんな落ち着いていた。だからこのような結果になったと思う。なぜみんながあそこまで落ち着いていたのかを考えると、今まで沢山練習してきたのもっと良いものができるという自信があったからだと思う。もし、全然練習もせずに本番をむかえて1、2年生の発表をみると絶対に不安になるし、焦ると思う。文化祭までに沢山練習を積み重ねたことが大切だと感じた。

○吹奏楽部のコンクール曲でコンクールで出なかった音をリベンジしようとかんばって練習していたけれど、1発目で出せなくて凄く悔しかったが、2発目は出せて凄くうれしかった。次は1発目を出したいと思ったのもっと練習する。また、盛り上げてもらって楽しめたり、合唱も劇も楽しんでいいものをつくり上げられて良かった。

○準備や練習期間は短かったけれど、予定に間に合って完成できて良かった。本番の劇は気になった所が直っていたり、アドリブとか多くて凄いなと思った。合唱は今まで練習してきたことが出し切れたと思った。蒼鷺も強弱やハモリが綺麗だと思った。Tomorrow も音をとることができていて良かったと思った。演劇も合唱もみんなが意見を言うてできたと思ったのでとても良かった。



〇とにかく準備をしっかりと大切にしていって挑むことができた。生徒会のオープニングの太鼓で夏休みから練習をしてきて、9人で息を合わせて一生懸命に力強くたたくことができた。演劇と合唱では42人の心を一つにして仲間を信じて取り組むことができたので、とても感動できるものをつくることができた。本番にこのように感動できるものがつくれたのは、今までのそれぞれの準備があったからだと思う。裏方の準備もキャストの準備も本番に向けての心の準備もすべてのことを全員でしてきたから大成功したのだと思う。とても感動するいい1日になったし中学校生活最後の文化祭にとってふさわしい1日になった。最高の思い出だ。

〇照明はライトを消すタイミングもそろって良かった。役者の演技もうまかった。合唱は蒼鷺がそろって綺麗に歌っていた。

〇大道具の役割を確実にこなすことができた。合唱では練習時にミスをしていた部分をミスせずに歌い切れた。吹奏楽部の演奏は思わずリズムに合わせて体が動いた。文化委員で任された照明の仕事も確実にこなすことができた。

〇あっという間に終わってしまったなあ〜というのが今の正直な気持ちだ。文化祭の練習を始めたのは夏休みの太鼓の練習だったのだがその頃はまだまだ文化祭が遠くにいたのにいつの間にか終わっていて未だに信じられない。練習でも本番でも「みんなと最後なんだ」と思うと凄く悲しくなって、文化祭当日は本番中に泣きそうになった。そう思えるのはこのメンバーが大好きだからだと思う。合唱を歌っていると1、2年生の頃が思い出され今日が終わってほしくないと思ったし、このメンバーに出逢えて良かったなと思った。この文化祭を通して、準備の大切さだけでなく仲間の大切さも知ることができた。みんながいるから一つひとつのものをつくることができたし、この文化祭が楽しいと思うことができた。中学校を卒業してもつながっていたいメンバーだなと改めて思った。



○3年の演劇の紹介のアナウンスをすることが最初の仕事だったが詰まることなく言えた。そのままの流れで演劇の音響の仕事をした。プレーキ音だけちょっと役者と合わなかった。合唱では、1年生の式のレベルが高くて、まわりから「あんな風にやれよ」と言われてちょうどいいくらいのプレッシャーになり、リラックスもできた。

○本番だけでなくその過程や後片付けも充実したものになった。練習ではみんなが「もっとこうすればいいんじゃないか」と互いに高めあう気持ちを持ち、パートリーダーの言ったことに対してそれをしっかりと受け止めているなどと思った。計画的に早め早めに各係が取り組んでいた。仕事が終わった係は他の所を手伝って助け合いながら、和気藹々とできていた。このような過程があったからこそあの本番の結果であったり、感動につながったのだと思う。後片付けも全校生がずっと取りかかっている、文化祭の雰囲気流されず切り替えができていた。



○オープニングでテンションが上がった。生徒会の人たちがとてもかっこよかった。合唱では、いつも以上にうまく歌えた「Tomorrow」の「うよ～」のところなどもバッチリ揃っていてとても良かった。ものすごく緊張していた全校合唱の伴奏もミスなく終えることができた。思い出が沢山できた文化祭になって本当に良かった。

○当日まで3-1全員が真剣に取り組んできた成果が出てきたみたいでとてもうれしかった。鑑賞の態度もルールやマナーを守って楽しむことができたのも良かった。演劇では、大道具を素早く運ぶことができたし、合唱では「蒼鷺」「Tomorrow」ともに練習でパートリーダーのいっていたことを意識して歌えて良かった。

○合唱を練習通りに歌うことができた。演劇では、ファイルをつくったり、色を塗ったり、なぞったりすることができて良かった。吹奏楽部の演奏でマイクを持って話をすることができたので良かった。校長先生にも褒めてもらってうれしかった。



○生徒一人ひとりが力を合わせて、お互いのダメだったところを言い合いながら、みんなで一つのものをつくり上げることができたと思う。みんなで楽しんでできた。一つのものをつくり上げるときに係だけでつくり上げるのではなく、みんなでつくり上げていることに改めて気づいた。

○劇では自分の役になりきれなくて沢山悩んだ。色々なパターンの怒り方があるのでどの怒り方がこの役にあっているのかを考えて、最終日の2日前くらいにようやくどういう怒り方がこの役に合っているのか定まってきた。ただ怒るだけでなくぴったりの怒り方が見つかるまでこだわって練習をしたの

で納得のいく劇になった。合唱では最後の方に改善したいことを詰め込みすぎたかなと思った。初めからゆっくりのテンポで練習していたら良かったと思った。後半にできていないことが多くあるととても焦ってしまうので初めに意識することを確認したり、苦手なところを改善しておけば良かったと思った。

○中学校生活最後の文化祭だということを言葉では分かっているが実感がない。最後だからやった、最後だから感動できたといったことがなかったの、平常心で心の迷いもなくできたと思う。文化祭が成功できたのは、準備期間にがんばったからだ。裏方の仕事が好きだ。表に出て発表するわけではないけれど、成功を願い、キャストなどの舞台を整えるというカッコよさ。自分はキャストだったがそんな願いをくみ取って劇をできただろうか。晴れ舞台には上がらない人たちの努力によって成功できた文化祭だった。

○最後の文化祭ということもあり、一段と熱くなった。劇では、一つひとつ細かいところまで工夫した。小道具では楽譜にひまわりや名前を書いてもらったりしたことや大道具ではピアノが運べないので板でピアノに見えるように工夫したり、背景では心を一つにの羽やひまわりの花びらを指で塗ったり、キャストはセリフがないときの行動を工夫した。そういう細かいところが観てくださっている人に伝わり、感動した劇になったんだと思う。合唱では、できないところを何回も練習したり、ブレスを合わせたり、強弱をつけたりと最高の合唱にできた。



○文化祭は大成功だったと思う。演劇では、裏方など関係なく一つになったり、合唱ではクラスが一つになって練習以上のものを出せて良かった。文化祭全体を3年生が盛り上げたり、楽しみながらできたので良かった。この学年で挑めるテストや日常生活を大切にしてい



きたい。卒業式まで残り少ないが、これからも受験に向けてがんばっていききたい。

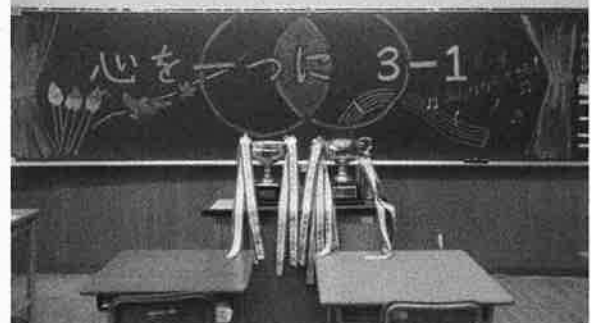
○合唱、演劇だけでなく、生徒会としての役割もあり、結構忙しかった文化祭だった。生徒会で夏休みから鼓篠組の方にお世話になって太鼓を習ったり、4部合唱という新しいものやってみたりと、沢山の新しいものにみんなと挑めてそれを完成させることができて楽しかった。それらを通して準備の大切さだったり、チームワークの大切さを学んだりしたので、大きな行事が終わって普段の生活に戻るが学んだことを大切にしながら、進路実現のために準備していかなければいけないと思った。



○演劇では、自然な動きになるように何度も練習をしたので、セリフがないときの動きも良くて良かった。キャストだけでなく、裏方の本番の動きやそれまでの動きもとても良かった。感謝している。42人みんなのおかげで感動を与えられたと思う。合唱では、パートリーダーが中心となってよく練習できていたと思う。正直、本番2、3日前からとても焦りだしていた。これで大丈夫なのかなあ〜とずっと思っていた。でも、前日は、大丈夫と思えた。何でそんな風に気持ちが変わったのか分からないけれど、さすが3-1やなと思った。42人でとった2冠だと思う。



○このメンバーで、3-1で良かったと思った。オープニング、演劇、合唱、結果発表の1つ1つ終わるたびにこれで最後なんだと感じた。前日にみんなが言っていた「心を一つに」が本当に実現できたと思う。次は音弁がある。夢であったことなので叶ってとてもうれしい。劇ともつながっていると思った。夢を信じていればいつか叶う。そう思えた。音弁ではもっといいものができるように練習していきたい。



○本気で本番に臨んだ。練習の時に毎日、日に日に良くなっていくのが楽しくて、うれしくて、このクラスで良かったと思った。合唱では、ソプラノもアルトもテナーもバスもバランスが良くてとても綺麗だった。先生方が感動したと喜んでくださってとてもうれしかった。一緒に歌っていて感動した。2冠がとれてうれしかったけどそれよりも心を一つにして歌えたこと、練習よりも上手に歌えたことが良かった。



○台本を決めるときからみた人はどう思うのかを考えながらできたので良かった。背景係に決まり、絵の大きさを決めるときは協力してできたし、やるときは集中してやるなどのメリハリをつけてできた。合唱では、歌い始めたとき本当に最後まで歌いきれるか不安だったが、各パートで団結できたので本番、気持ちよく歌いきることができた。準備が1日終わるごとにみんなこんなに進んでいるのかと思ったり、体育館でキャストが役になりきっているのを見て自分もがんばろうという気持ちになった。文化祭当日が楽しく大成功に終わったのも、吹奏楽部が練習中にみんなが一生懸命に準備してくれたおかげだし、合唱を心を一つに歌い、劇を裏方の分までステージで発表してくれたキャスト、劇の雰囲気を出す音響、照明、小道具、大道具、背景のみんながいたからだと思うのでみんなに感謝したい。



○みんなとコミュニケーションがしやすくなった。コミュニケーションはできるようにはなったけど会話の回数をもっと増やせたら更に良くなると思う。



○生徒会のオープニングや全校合唱のパートリーダー、キャストととても忙しい文化祭だった。覚えることも沢山あって、「できるのか」と何度も思った。でも、みんなと協力していくことで、一つひとつできるようになった。当日は楽しく過ごすことができたし、自分のやるべきことをしっかりとやることができて良かった。



○準備では、それぞれに役割を果たし、主体的に動いていた。それぞれの役割は違っていても、協力し合ったり、励まし合ったりして取り組んでいた。合唱もそれなりにできていたがパートごとやパート内で温度差があったように感じた。音弁に向けてできるだけ温度差をなくしていきたい。本番は練習した成果が出せた。後片付けでは、みんな疲れが出ていたが最後までできていた。自分のやることが終わったら他のところを何も言わず手伝っていることが本当に自慢できるところだ。



○どうすれば短い時間で良いものができるのか、仕上げる事ができるのかを考え実行することができた。今回の文化祭のテーマは主体的に動かだったがそれぞれが主となり軸となりクラス全体を引っ張ることで合唱や演劇をこれまでにない感動できるものにできたと思う。主体的に動けることができた。



○3-1のメンバーで取り組む行事としては最後の行事だった。準備期間中、ふっと寂しい気持ちがかみ上げてきた。最後の文化祭だから必ず成功させようと思って合唱練習も演劇の練習もいつもよりやる気が出た。合唱のパート練習では、適切なアドバイスを出してくれて良いものに仕上げることができた。当日舞台上がるときは緊張したが、今までやってきたことを信じてがんばったので落ち着いて歌うことができた。練習中、何度も「みんなの心が一つになってる」と感じるときがあっとうれしかった。この文化祭を通してこのクラスが好きになった。

○音響ってこんなに大変だったんだと思った。でも、音響を選んだことは後悔はしていない。その理由は、他の人も本気でやるんだなということが感じられたからだ。特に水曜日、木曜日あたりの背景を少し見に行ったときに若干ピリピリしていた。それを見ると「自分も本気になれているのかな」ということを感じた。それが音響をやるモチベーションになっていたのかなと今となって思う。演劇に留まらず合唱でもみんなが1つの目標に向かって取り組めたことはよい経験になった。



○最初は少ない時間で完成できるか心配だったが、手際よくすることで早く完成し、余った時間で完成度を上げることができた。合唱練習は、最初の1時間で歌えるようになり凄いなと思ったが、次々と課題が降ってきた。これが音楽の難しいところでもあり楽しいところだと初めて気づいた。本番前日や本番にハプニングが起きても余裕を持っていたので落ち着いて直すことができた。日頃の準備がどれだけ大事なところで出てくるかを感じた瞬間だった。

○オープニングの生徒会の太鼓の演奏に圧倒された。普段の仕事もあるはずなのにどれだけ練習したんだと思った。本当に尊敬している。演劇ではあまり緊張はしていなかった。これまでの準備に自信が持てたからだ。改めて準備がいかに大切かが分かった。合唱では、はじめの頃は課題が山積して大変だったが、やっていくうちに良くなるのが自分でも分かりやりがいを感じた。ここまで引っ張ってくれたパートリーダーの人たちに感謝する。

